

カリキュラム 区分		授業 科目	人間の発達と教育 Human Development and Education			担当 教員	服部 兼敏(専任)
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	看護学の基盤となる科目Ⅰ	授業形態	講義
選択必修	選択	時間数	30時間			使用教室	
授業の目的及びねらい		子どもの発達を理解し、赤ちゃんに見られる原始反射とその消失を理解する。乳幼児の発達検査を理解する。また従来、言われていたような概念の問題点も理解する。					
授業のキーワード		胎児、系統発生、個体発生、氏と育ち、ピアジェ、言語発達、自我、対人関係 愛着、運動発達、発達検査、思春期、反抗期、青年期					
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画						
第1回	授業計画の説明、心理学的視点、神経学的視点、遺伝学的・進化学的視点						
第2回	胎児期、系統発生と個体発生、性差、内分泌攪乱物質						
第3回	氏と育ち(Nature vs. Nurture)、タブラ・ラサ、新生児の能力						
第4回	乳幼児の認知発達						
第5回	原始反射、自発運動、U字現象						
第6回	ピアジェの発達段階とピアジェ批判、フロイドとフロイド批判						
第7回	言語の発達						
第8回	自我の発達、対人関係の発達、愛着						
第9回	運動の発達						
第10回	} 発達検査(遠城寺、デンバー)						
第11回							
第12回	思春期の発達、反抗期						
第13回	青年期の発達						
第14回	成人期と老年期の発達						
第15回	精神科医との協働						
テキスト	服部兼敏(2007) 「人間発達」 PowerPoint File CD						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ● 小西行郎 (2003) 「赤ちゃんと脳科学」 集英社新書 ● 遠城寺宗徳、合屋長英 (1978) 「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」 慶応義塾大学出版会 ● 津守真 (1961) 「津守式乳幼児精神発達」, 大日本図書 ● W.K.フランケンバーグ (2005) 「デンバー発達判定法」 日本小児医事出版社 ● ジュディス・リッチ・ハリス(著)、石田理恵(訳) (2000) 「子育ての大誤解」 早川書房 						
成績の評価の方法と基準	<p>学期末試験(80%) 小レポート(10%)</p>						
教員から学生へのメッセージ	保健師さんや看護師さんが赤ちゃんの発達異常に気付く最初の専門家であることが多くあります。ぜひとも発達の基本概念は頭にいれましょう。						